

國學院大學學術情報リポジトリ

彙報

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-10-31 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001086

彙報

平成三十一／令和元年度(所屬・役職は開催当時、敬称略)

▽研究開発推進センター研究事業(伝統文化・神社・地域と共存社会の研究)

〈シンポジウム〉

・令和元年度共存学シンポジウム「グローバル」世界のビジョンを探る―「共存社会」の構築に向けて―、報告一―古沢広祐(経済学部教授)「グローバル」へ向かう世界のゆくえ―共存社会と国連SDGs―、報告二―ヘイヴンズ・ノルマン(神道文化学部教授)

「欧米における文化多様性の光と影」、報告三―茂木栄(神道文化学部教授)「森・里・海の共存から見える東

日本大震災被災地の復興調査とこれからの展望」、コメント一―木村武史(筑波大学教授)、コメント二―

濱田陽(帝京大学教授)、パネリスト一―菅浩二(神道文化学部教授)、コメント二―菊田真司(法学部教

授)、パネリスト三―笠間直穂子(文学部准教授)、司会―松本久史(神道文化学部教授)、令和二年二月十

八日(火) 十三時三十分～十七時三十分、若木タワー地下一階・会議室〇二

▽研究開発推進センター研究事業(乃木神社の研究)
(出張)

・「乃木神社所蔵資料調査」、宮本誉士(研究開発推進機構准教授)、令和二年三月二十七日(金)、東京都港区

(乃木神社)

令和二年度(所屬・役職は開催当時、敬称略)

▽研究開発推進センター会議

・第一回、令和二年九月十日(木)、メール審議

・第二回、令和二年十二月二十三日(水) 十二時二十分～十二時五十分、Zoomによるオンライン開催

▽研究開発推進センター研究事業(乃木神社の研究)

(出張)

・「乃木神社所蔵資料調査」、宮本誉士(研究開発推進機構准教授)、令和二年九月十八日(金)、東京都港区

(乃木神社)

・「乃木神社所蔵資料調査」、宮本誉士(研究開発推進機構准教授)、令和二年十月二日(金)、東京都港区(乃

木神社)

- ・「乃木神社所蔵資料調査」、宮本誉士（研究開発推進機構構准教授）、半田竜介（研究開発推進機構助教）、令和二年十月二十三日（金）、東京都港区（乃木神社）
- ・「東京都公文書館所蔵資料調査」、宮本誉士（研究開発推進機構構准教授）、令和二年十月三十日（金）、東京都国分寺市（東京都公文書館）
- ・「東京都公文書館所蔵資料調査」、宮本誉士（研究開発推進機構構准教授）、令和二年十一月十三日（金）、東京都国分寺市（東京都公文書館）
- ・「港区立郷土歴史館所蔵資料調査」、宮本誉士（研究開発推進機構構准教授）、半田竜介（研究開発推進機構助教）、令和二年十一月二十日（金）、東京都港区（港区立郷土歴史館）
- ・「乃木神社所蔵資料調査」、宮本誉士（研究開発推進機構構准教授）、半田竜介（研究開発推進機構助教）、令和二年十二月二十五日（金）、東京都港区（乃木神社）

▽研究開発推進センター研究事業（伝統文化・神社・地域と共存社会の研究）

〈國學院の学問（共存学）〉

令和二年度前期・各回水曜二限、ライブ配信もしくは録画配信で実施

- ・第一回、古沢広祐（研究開発推進機構客員教授）、菅浩二（神道文化学部教授）「共存学への招待（導入の授業）：「コロナ危機にどう向き合うか？」」、五月十三日（水）
- ・第二回、黒崎浩行（神道文化学部教授）「都市生活における共存と神社の関わり―渋谷や各地での試み―」、五月二十日（水）
- ・第三回、茂木栄（神道文化学部教授）「日本人は如何に風土を意味づけてきたか」、五月二十七日（水）
- ・第四回、山本健太（経済学部准教授）「伝統と文化の現代的諸相―西日本における神楽舞を事例に」、六月三日（水）
- ・第五回、黒澤直道（文学部教授）「中国のナシ族―急激な観光地化と『共存』」、六月十日（水）
- ・第六回、松本久史（神道文化学部教授）「文化としての神道と多元主義」、六月十七日（水）
- ・第七回、宮本誉士（研究開発推進機構構准教授）「和歌

から近代短歌へ―「旧派」と「新派」の共存―、六月二十四日（水）

・第八回、木村秀史（経済学部准教授）「アニメ経済と聖地巡礼―地域経済との共存―」、七月一日（水）

・第九回、加藤久子（東京外国語大学世界言語社会教育センター特任助教）「博物館から考える共存―ポーランドのユダヤ人の歴史博物館」、七月八日（水）

・第十回、ヘイヴンズ・ノルマン（研究開発推進機構客員教授）「文化多様性と共存の行方―欧米の動向をふまえて―」、七月十五日（水）

・第十一回、荻田真司（法学部教授）「共存の政治的条件」、七月二十二日（水）

・第十二回、佐藤俊輔（法学部専任講師）「ヨーロッパの移民統合から考える他者との共存」、七月二十九日（水）

・課題内容（一）菅浩二（神道文化学部教授）「冥王星と宇宙葬」

・課題内容（二）古沢広祐（研究開発推進機構客員教授）「国連SDGsへの招待」

・課題内容（三）古沢広祐（研究開発推進機構客員教授）、菅浩二（神道文化学部教授）「質疑応答と討論（補講）」

〈公開研究会〉

- ・令和二年度共存学公開研究会「東日本大震災被災地の復興活動10年を振り返る―震災復興と伝統文化、福島10年の総括と今後―」、報告一〓平本謙一郎（公財）福島イノベーション・コースト構想推進機構企画事業部事業課東日本大震災・原子力災害伝承館アテンダント、元岩手県復興局震災津波伝承課東日本大震災津波伝承館解説員）「東日本大震災被災地における復興支援と震災伝承の取組み」、報告二〓懸田弘訓（元民俗芸能学会福島調査団団長）「福島県の震災復興と民俗芸能」、報告三〓上西律子（NPO民俗芸能を継承するふくしまの会会員）「民俗音楽研究の立場から福島県被災民俗芸能の復興に取り組む」、報告四〓山名隆弘（福島県いわき市・大國魂神社宮司）「福島県浜通り地方の復興過程における神社・神職の取組み」、コメント一〓茂木栄（神道文化学部教授）、コメント二〓黒崎浩行（神道文化学部教授）、司会進行〓古沢広祐（研究開発推進機構客員教授）、令和三年二月六日（土）十四時〜十七時四十五分、Zoomによるオンライン開催

▽國學院大學二十一世紀研究教育計画委員会研究事業
「渋谷の都市形成と再開発に関する研究」

〈國學院の学問（渋谷学）〉

令和二年度後期・各回水曜二限、ライブ配信、録画配信、動画配信のいずれかで実施

- ・ 第一回、林和生（文学部教授）「授業のオリエンテーション」と「台地と川が造った魅力あふれるにぎわいの街・渋谷」についての講義」、九月二十三日（水）
- ・ 第二回、西樹（シブヤ経済新聞編集長）「シブヤ経済新聞と渋谷」、九月三十日（水）
- ・ 第三回、林和生（文学部教授）「街路から見た渋谷の都市の魅力」、十月七日（水）
- ・ 第四回、吉岡孝（文学部教授）「江戸時代渋谷の藩邸と名所」、十月十四日（水）
- ・ 第五回、根岸茂夫（文学部教授）「谷間の村と町の風景―渋谷学―」、十月二十一日（水）
- ・ 第六回、手塚雄太（文学部准教授）「渋谷区の誕生」、十月二十八日（水）
- ・ 第七回、吉田律人（兼任講師・横浜開港資料館調査研究員）「代々木練兵場の社会史」、十一月十一日（水）
- ・ 第八回、高久舞（兼任講師）「渋谷の祝祭空間とその変容」、十一月十八日（水）

- ・ 第九回、飯倉義之（文学部准教授）「渋谷を巡るハナシと記憶―伝承文学から考える渋谷―」、十一月二十五日（水）

・ 第十回、石井研士（神道文化学部教授）「渋谷の神々―戦後渋谷の宗教と社会―」、十二月二日（水）

・ 第十一回、黒崎浩行（神道文化学部教授）「渋谷の防災・減災と宗教文化」、十二月九日（水）

・ 第十二回、黒崎浩行（神道文化学部教授）「渋谷の住宅地と神社祭礼」、十二月十六日（水）

・ 第十三回、田原裕子（経済学部教授）「『100年に一度』の渋谷再開発の背景と経緯―地域の課題解決とグローバルな都市間競争―」、十二月二十三日（水）

・ 第十四回、橋元秀一（経済学部教授）「渋谷エコノミー―統計データからみた渋谷区およびシブヤの地域経済的特徴と課題―」、一月十三日（水）

・ 第十五回、課題「あなたが構想する渋谷の未来について」に回答、一月二十日（水）

〈シンポジウム〉

- ・ 令和二年度オンライン渋谷学シンポジウム「地域資源を活かした都市防災へ―渋谷東地区と他地域から考える―」、第一部録画配信（YouTube）、令和二年十一月十六日（月）～二十八日（土）、基調講演Ⅱ稲

場圭信（大阪大学大学院教授）「都市防災に活かされる地域資源としての宗教」、報告一〇黒崎浩行（神道文化学部教授）「多様性のあるまち渋谷のレジリエンスと宗教文化」、知久雅一・鈴木清志（ときわ松町会）「町会行事と地域防災」ときわ松町会の場合」、報告二〇熊澤雄一郎（渋谷区危機管理対策部帰宅困難者対策担当課長）「渋谷区の帰宅困難者対策について」、報告三〇佐野和子（震災時における地域社会の役割を考える会）事務局）「世田谷区代沢の文化活動における多宗教連携と防災との関わり」、矢島嗣久（北澤八幡神社宮司）「代沢芸術祭と地域に根差した防災活動」、コメント〇古沢広祐（研究開発推進機構客員教授）、第二部ライブ配信（Zoom）、総合討議、令和二年十一月二十八日（土） 十四時～十五時三十分

▽成果公開

〈刊行物〉

- ・『別冊ブックレット渋谷学』令和三年二月
- ・『國學院大學研究開発推進センター研究紀要』第十五号、令和三年三月